

(9) FAC6031 キャンプ・マクトリアス (Camp Mctureous)



ア 施設の概要

(ア) 所在地：うるま市 (字川崎^{かわさき}、字西原^{いりばる})

(イ) 面積：379千㎡

単位：千㎡

市町村名	国有地	県有地	市町村有地	私有地	計
うるま市	33	—	1	345	379

(ウ) 地主数：401名

(エ) 年間賃借料：4億3百万円

(オ) 主要建物及び工作物

○建物：小学校、幼稚園、教会、消防舎、体育館、家族住宅、倉庫、青少年センター、ボイラー室ほか

○工作物：保安柵、バスケットコート、サッカー場、プール、駐車場、貯水槽、上下水道ほか

(カ) 基地従業員：17名 (MLC 16名、IHA 1名)

イ 使用状況

(ア) 米軍部隊名

○管理部隊名：海兵隊キャンプ・バトラー基地司令部、第18航空団第18任務支援群

○使用部隊名：—

(イ) 使用主目的及び使用条件 (5. 15メモ等より)

○使用主目的：宿舎、管理事務所及び訓練場

○使用条件：

合衆国軍隊は、広範囲の有視界飛行による航空機の運用のため、キャンプ・マクトリアス上空、高度2,000フィートまでの全空域の使用を許される。

(ウ) 施設の現状及び任務

この施設は、うるま市の中心部にある安慶名区の西側、県道8号線沿線の南側にあり、昭和50年8月に在沖海兵隊基地司令部がキャンプ瑞慶覧に移駐するまでは、沖縄にある海兵隊施設の維持、管理及び海兵隊の後方支援業務を統括する任務をもっていたが、現在では、主に家族住宅が設置され、小学校、スポーツ施設等が整備され、学校、住宅地区として使用されている。

四軍共同の刑務所もあったが、昭和61年にキャンプ・ハンセンへ移設された。

当該施設用地は、宿舎等の用地として大半が人工的に変更されており、わずかに樹林地が残されている。

(エ) 共同使用の状況

a 地位協定第2条第4項(a)：共同使用

共同使用者	使用目的	面積	使用開始年月日
○沖縄電力株式会社	電柱等敷地	0千㎡	昭47.5.15

第8章 基地の概要

b 地位協定第2条第4項(b)：なし

(オ) 沿革

昭和20年	米陸軍貨物集積所として使用開始。
昭和32年4月1日	在沖米海兵隊基地司令部設置。
昭和39年6月30日	約6,000㎡を返還。
昭和40年10月	在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ・コートニーへ移転。
昭和44年11月	在沖米海兵隊基地司令部が再びキャンプ・マクトリアスに戻る。
昭和47年5月15日	提供施設・区域となる。
昭和50年8月	在沖米海兵隊基地司令部がキャンプ瑞慶覧へ移転。
昭和60年10月31日	排水施設として、工作物（排水路）を追加提供。
平成元年	家族住宅296戸完成。
平成3年6月26日	家族住宅等として、建物約38,000㎡と工作物（下水等）を追加提供。
平成4年5月14日	土地約390㎡を返還。
平成4年7月2日	家族住宅等として、建物約24,000㎡と工作物（水道等）を追加提供。
平成4年8月31日	道路用地約640㎡を返還。
平成5年9月27日	保安柵として、工作物（囲障）を追加提供。
平成8年1月31日	道路用地約5,030㎡を返還。
平成8年9月26日	消防署等として、建物約530㎡と工作物（囲障等）を追加提供。
平成10年3月26日	囲障として、工作物（囲障）を追加提供。
平成14年7月9日	青少年センターとして、建物約660㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成15年3月26日	学校として、建物約2,700㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成24年7月11日	通信ケーブルとして、工作物（電話線路）を追加提供。

ウ 周辺状況等

(ア) 地域との関わり

当該施設は、うるま市（旧具志川市）のほぼ中央に位置し、施設の北東は市街地、西側及び南側は、住宅等が点在する農業地域である。

キャンプ・マクトリアスの所在するうるま市は、ほかにホワイト・ビーチ地区や嘉手納弾薬庫地区等が所在し、市面積に占める米軍基地の割合は7.1パーセントである。詳しくはキャンプ・コートニーの項を参照。

平成23年12月5日、キャンプ・マクトリアス内の建物内で燃料パイプとボイラー室を接続するホースが破損し、ディーゼル燃料約371ガロン（約1,404リットル）が流出し、そのうち少量が天願川へ流出した。

エ 返還計画・跡地利用計画

(ア) 返還計画

なし。

(イ) 跡地利用計画

策定されていない。